

無事故のための100% ライフセーバーが守る笑顔

まだ夏の日差しが残る9月の片瀬江ノ島東浜海岸。SURF RESCUEとペイントされたボードを前に凛々しく並ぶ彼らは、帝京大学ライフセービング同好会のメンバーたちです。昨年できたばかりという、この組織の立ち上げに関わったキャプテンの原琢介さんは、医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コースで学ぶ3年生。消防士になる夢を持って大学に入り、その進路に役立つという先輩の勧めもあって、ライフセーバーの資格試験を受けたのが始まりでした。「僕は長野県出身ということもあって、高校まで海とは無縁の生活を送っていました。そのときからすると、今の自分は想像もつかないですね」。ライフセービング同好会の主な活動は、年間を通しての練習や、夏休みを利用した海岸の監視活動など。下田海岸や三浦海岸、辻堂など浜ごとにクラブがあり、6月の終わりまでに担当箇所を決めて活動に専念します。この夏、原さんは伊豆諸島の式根島を担当。約1カ月に渡り、泊まり込みで海の安全確保にあたりました。「活動中は、基本的によく、見るのが大事。海岸にあるタワーからの監視と、レスキューボー

ドなどでのパトロールを行います。式根島の浜は、白い砂と透き通った海というリゾートのような口ケーション。湾の中にあるので比較的安全なのですが、水深の浅いところで飛び込もうとする方など、危険な行為に対して「気をつけて」と声をかけ、未然に事故や怪我を防ぐよう心がけています」。目標の「無事故」で、今夏のシーズンを終えることができたという原さん。それでも、台風が近づく中で、沖へ流されそうになった子どもを救助するなど、ひやりとする瞬間は多々あったそう。「海を見ながら、こういう経路と機材で救出に行くかをシミュレーションしたり、チームとして誰がどう動くのが効率的なのかを考えたり……。まだまだ、勉強することはたくさんあります」。大切なのは安全・確実・迅速に救助を行うこと。そのために、シーズン中は毎日5時に起きて、朝の練習も欠かしません。「肉体的につらいこともありますが、社会との関わりという意味で、すごく勉強させてもらっています。ライフセーバーという人と、事故が起こったときに助けに行く人というイメージがありますが、事故が起こらないように100%の力を注ぐことが、もっとも大切だと思っています」。危機を未然に防ぐ。決して目立ちたはしないけれど、海で過ごす人たちの笑顔を守る、重要な存在なのです。

feel TEIKYO 

あなたにつながる帝京大学 撮影・鈴木新



帝京大学 本部大学PR推進室
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします

帝京大学のあれこれを充実のコンテンツで紹介する冊子「feel TEIKYO」を配布中。
冊子請求先 → post@med.teikyo-u.ac.jp (本部大学PR推進室)
スペシャルサイト → www.feelteikyo.com